

シンポジウム I 守るべきいのちと尊厳

10月17日(木) 10:00～12:00 第1会場(広島国際会議場 B1F フェニックスホール)

S1-4 青少年赤十字と学校教育について

青少年赤十字広島県指導者協議会 会長／広島市立国泰寺中学校 校長

みうら よしゆき
三浦 義之

1 青少年赤十字について

青少年赤十字は児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成すること、そして、学校教育の中で誰の心にもある「困った人、苦しむ人を見たら何かしなくては行かない」という気持ち(人道)に基づき、「やさしさ」「思いやり」を行動にうつせるように育成することを目的としている。青少年赤十字の誕生は、いまから90年以上も前。第一次世界大戦中、カナダ赤十字で負傷兵の救護をするため、包帯を作る支援が学校の自発的な取組から始まる。日本では、大正12年(1923年)の関東大震災の被災者に対し、学校現場が食糧支援や文房具の支援をしたことが最初の活動となる。このように青少年赤十字のはじまりは赤十字が一方向的に生み出した事業というよりは、子どもたちの健やかで豊かな成長を願い、そしてそれを支援しようと考え実行した学校の教師たちと赤十字との出会いから生まれた自発的な活動である。つまり、青少年赤十字は、学校自身が自ら掲げる教育目標(理念)の育成に基づいて、学校が自主的に取り入れてきた教育活動の1つである。

2 青少年赤十字の活動について～気づき、考え、実行する～

青少年赤十字は、実践を通して人格の形成を図ることをねらいとしている。特に実行を重視しており、「為すことによって学ぶ」という意味がここにある。その実践目標は、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つ。主体性をもって、「気づき、考え、実行する」という態度目標の下、それぞれの実践目標で多様な取組を進めている。特に最近では地震や大雨による災害が多発している状況から、防災教育に力を入れた実践が学校現場では増えてきており、「健康・安全」では、防災教育として地域と協力した避難訓練や炊き出し、救急救命法の体験、防災教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用した授業実践等が広がりを見せている。また、「奉仕」ではこれまでの取組である募金活動、施設訪問、地域清掃等が行われ、「国際理解・親善」では手話の学習やPTAと連携したチャリティバザーの開催、韓国やネパールの青少年赤十字メンバーとの交流も行われている。これらの活動に加えて、JRCのリーダー育成として、小学校・中学生・高校生を対象とした宿泊を伴うトレーニングセンター等の実践もある。これらの活動は主体的な行動を重視した体験や実践、プログラムにより、教育の目指す「生きる力」の育成につなげている。

3 いのちの尊厳、そして平和について

子どもや青少年の体験活動等に関する調査研究によれば、子供の頃に、家庭や地域などで様々な体験をした人ほど、大人になってからの意欲が高い傾向がみられることや体験が豊富な青少年ほど、道徳観・正義感が強い傾向がみられ、さらに体験が多い青少年は、自己肯定感も高い傾向がみられる。このことから、「人道」に基づく、主体的な実践が多く取組まれる青少年赤十字の活動は、変化の激しい社会の中で求められる「生きる力」、つまり、自ら学ぶ、自ら問いを立て問題解決に取り組む力、豊かな人間性、健康・体力という点で学校教育に大きく貢献している。未来の社会をつくる使命をもつ教育は、未来に生きる子どもらのいのちを守り、育て、そして、互いを認め合い、支え合う社会づくりを担う。主体的な活動による、気づき、考え、実行する態度目標を目指した青少年赤十字の実践は教育現場の目指す主体的で、自律した、課題解決を仲間とともに取り組む新しい時代を生きる人間づくりに求められているのである。